

# あたまの健康チェック

氏名： テスト 花子様

生年月日・年齢： 1958年2月22日 (55歳)

性別： 女性

検査日： 2013年4月1日

## - 本紙のご説明 -

「あたまの健康チェック」の受検結果を掲載しています。  
本結果レポートは、受検された方の認知機能の低下リスクの有無を判別するものです。

「あたまの健康チェック」は様々な理由によりみられる軽度認知障害 (MCI) と正常老化からくるもの忘れを97%の精度で判別します。  
「あたまの健康チェック」の受検が2回目以降の場合には、前回と今回のチェック結果が比較表示されます。

### ※ 必ずお読みください

本レポートで提供される情報は、認知症予防や早期発見に関する教育や警鐘を目的としたもので医師によるアドバイス、現在受けている治療などに代わるものではありません。また、このレポートで提供される情報や結果は、病気の診察や診断を意図するものではありません。

## 軽度認知障害 (MCI) は認知症ではありません (Petersen RC et al. Arch Neurol 2001)

### 総合評価

### 問題は見つかりません

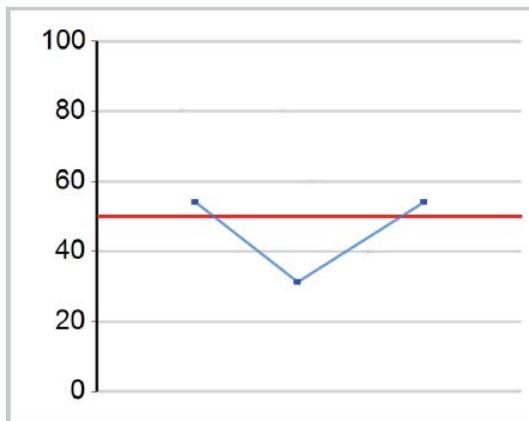
前回と比較して改善

あたまの健康チェックの結果は97.3%の精度であるため、100%正確な結果は得られません。  
ご心配な方は専門の病院にてご診断ください。

### MPI スコア / 認知機能指数

**52.72** (前回 29.58)

MPI スコアとは対象者の認知機能を示す指数で0-100の数値で表記されます。表記された数値により「MCIの疑いあり (0=<MPI=<49.8)」「問題は見つかりません (50.2=<MPI=<100)」を判定します。この判定は、対象者の回答を同年齢、性別、学歴年数などのピアグループと比較し行われます。ただし、約1%のケースにおいてこの判定ができない場合があり、その場合には「ボーダーライン (49.8=<MPI=<50.2)」と表記されます。MPI スコアは12万以上のデータを基に人口統計学的に開発されたもので米国特許を受けています。



### 定期のチェックを行いましょう

定期的に本テストを受検することにより時系列で対象者の認知機能指数の推移を観察することができます。

55歳以上の方は1-2回/年、親族に認知症の方がいらっしゃる場合には2-4回/年の定期チェックをお勧めします。

## あたまの健康チェックの特徴

本テストは様々な要因からくる認知機能の低下と正常老化現象からくるもの忘れとを、高い精度\*で判別します。

本テストは認知機能の一般的な評価を提供することを目的とします。

認知機能に関与し得る病状または病気を診断する、あるいは、治療することを目的としたものではありません。

\*文献: PNAS 2005; 102(13): 4919-24.

## 定期的なチェックを

55歳以上の方には6ヶ月に1度、少なくとも1年に1度の定期的な本テスト受検をお勧めします。継続して本テストの受検をいただくことによりMPI(認知機能指数)の推移を観察することができます。

また、ご家族に認知症の方がいらっしゃる場合には2-4回/年の本テスト受検をお勧めします。

## 軽度認知障害(MCI)とは

微細な認知機能の低下が認められるが認知症ではなく日々の日常生活では自立した状態とされています。

MCIの状態のまま放置した場合であっても、深刻な認知機能低下が起こらないケースもあるとされていますが、その後の生活習慣改善などの予防や治療なしに放置された場合、認知症へと進行するケースも報告されています。

軽度な認知障害は、高血圧、ライフスタイル、高コレステロール、糖尿病、梗塞といった治療可能な疾病によるものが60%程度占めるとも言われています。そのため、糖尿病や心疾患などと同様に認知機能低下に対する予防や治療が早期に行われることが最も重要です。

## 様々な原因があります

認知機能低下の原因として頻繁にアルツハイマーがあげられますがその他にも認知機能低下の原因となるごく一般的なコンディションは数多くあげられます。

主な認知機能低下の原因と考えられる要因: ストレスや不安感、注意欠陥障害、うつ病、甲状腺疾患や糖尿病など生活習慣病、アルコールや化学物質依存、ビタミンB-12不足、脳ならびに脳血管性疾患、医薬品、頭部外傷 など。

「あたまの健康チェック」サイト  
[www.millennia-corporation.jp/ninchi](http://www.millennia-corporation.jp/ninchi)